

2022年度 大学院生アンケート報告書

川崎医療福祉大学
FD・SD委員会

本学の「大学院生アンケート」は専攻での教育・研究について大学院生がどのように評価しているかを把握するために行っている。この調査は、2008年度より始まり、毎年実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

対象は大学院生全員で、2022年度の対象者数は123名であった。アンケートはポータルサイト上のWebClassで実施した。質問項目は巻末の資料1の通りである。

1-2 実施期間

2023年1月5日（木）～2023年2月16日（木）

2. 実施結果

2-1 回収率（表1・表2）

修士課程 在籍者98名に対して64名から回答を得た（回収率：65.31%）

博士後期課程 在籍者25名に対して11名から回答を得た（回収率：44.0%）

表1 回収率の内訳（修士課程）

専攻	学生数	回答数	回収率
医療福祉学	8	6	75.0%
臨床心理学	23	13	56.52%
保健看護学	22	16	72.73%
感覚矯正学	4	3	75.0%
健康体育学	4	2	50.0%
臨床栄養学	8	7	87.5%
リハビリテーション学	5	1	20.0%
臨床工学	1	0	0.0%
医療技術学	10	9	90.0%
医療福祉経営学	3	1	33.3%
医療秘書学	2	1	50.0%
医療福祉デザイン学	3	1	33.3%
医療情報学	5	4	80.0%
合計	98	64	65.31%

表2 回収率の内訳（博士後期課程）

専攻	学生数	回答数	回収率
医療福祉学	5	2	40.0%
臨床心理学	4	0	0.0%
保健看護学	4	3	75.0%
感覚矯正学	5	2	40.0%
リハビリテーション学	1	0	0.0%
健康科学	4	3	75.0%
医療技術学	1	1	100.0%
医療情報学	1	0	0.0%
合計	25	11	44.0%

2-2 修士課程全体・博士後期課程全体の結果

両課程において、専攻の教育に対する全体的な満足度（Q1）、カリキュラムの体系度に対する評価（Q2）、シラバス記載の到達目標の達成度（Q3）、高度専門職者として必要な知識・技術の習得度（Q4）、指導教員（副指導教員を含む）の研究指導に対する満足度（Q6）、研究成果の公開機会（中間研究報告会、学会発表、論文投稿など）の多さ（Q7）、また、修士課程において、研究課題に対する主体的な取り組み（Q5）、実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（Q8）の各質問項目が4.0以上と概ね肯定的に評価されていた。一方、両課程において、社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（Q9）と他専攻の教員・大学院生との対話・交流に対する満足度（Q10）の平均値、また、博士後期課程において、実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（Q8）の平均値は3.0台だった。また、修士課程において、社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（Q9）の平均値、博士課程において、研究課題に対する主体的な取り組み（Q5）の平均値は4.0台にわずかに及ばなかった。

2-3 各質問項目の記述統計値－各専攻別の結果（表3・表4）

Q1 専攻の教育全体に対する満足度（修士平均4.44、博士平均4.30）

修士課程では、4.5以上が6専攻で、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が1専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が3専攻、4.0以上4.5未満が1専攻、3.0台が1専攻であった。

Q2 カリキュラムの体系度に対する評価（修士平均4.29、博士平均4.03）

修士課程においては、4.5以上が5専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が2専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が2専攻、3.0台が3専攻であった。

Q3 シラバス記載の到達目標の達成度（修士平均4.10、博士平均4.17）

修士課程においては、4.5以上が4専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が3専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が3専攻で、3.0台が2専攻であった。

Q4 高度専門職者として必要な知識・技術の習得度（修士平均4.32、博士平均4.07）

修士課程においては、4.5以上が5専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が2専攻であった。博士課程においては、4.5以上が2専攻、4.0以上4.5未満が1専攻、3.0台が2専攻であった。

Q5 研究課題に対する主体的な取り組み（修士平均4.34、博士平均3.97）

修士課程では、4.5以上が5専攻、4.0以上4.5未満が4専攻、3.0台が3専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が2専攻、3.0台が3専攻であった。

Q6 指導教員（副指導教員を含む）の研究指導に対する満足度（修士平均4.42、博士平均4.70）

修士課程においては、4.5以上が6専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が1専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が4専攻で、4.0台が1専攻であった。

Q7 研究成果を公開する機会（中間研究報告会、学会発表、論文投稿など）の多さに対する評価（修士平均 4.67、博士平均 4.37）修士課程においては、4.5 以上が 10 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 1 専攻、3.0 台が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 3 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 1 専攻、3.0 台が 1 専攻であった。

Q8 実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（修士平均 4.09、博士平均 3.57）修士課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 5 専攻、3.0 台が 2 専攻、2.0 台が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.0 以上が 2 専攻で、3.0 台が 3 専攻であった。

Q9 社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（修士平均 3.98、博士平均 3.67）修士課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 4 専攻、3.0 台が 3 専攻、2.0 台が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.0 以上 4.5 未満が 3 専攻、3.0 台が 2 専攻であった。

Q10 他専攻の教員・大学院生との対話・交流に対する満足度（修士平均 3.44、博士平均 3.80）修士課程においては、4.5 以上が 3 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 2 専攻、3.0 台が 4 専攻、2.0 台が 1 専攻、1.0 台が 2 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 1 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 1 専攻、3.0 台が 3 専攻であった。

表 3 修士課程結果

修士課程	Q1:専攻の教育		Q2:カリキュラム		Q3:到達目標の達成		Q4:知識・技術の習得		Q5:主体的な取り組み		Q6:研究指導		Q7:成果の公開		Q8:設備・施設・図書		Q9:社会との連携		Q10:対話・交流	
	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV
医療福祉学	6	5.00	6	4.83	6	4.50	6	4.67	6	4.83	6	5.00	6	5.00	6	4.33	6	4.33	6	4.17
臨床心理学	13	4.31	13	4.15	13	4.15	13	4.31	13	3.77	13	4.08	13	4.77	13	4.15	13	4.31	13	4.08
保健看護学	16	4.00	16	4.00	16	3.81	16	3.88	16	4.19	16	4.44	16	4.25	16	4.00	16	3.81	16	3.81
感覚矯正学	3	5.00	3	5.00	3	4.33	3	5.00	3	4.67	3	5.00	3	5.00	3	4.67	3	4.67	3	4.67
健康体育学	2	4.50	2	4.00	2	4.50	2	4.00	2	3.50	2	4.50	2	4.50	2	4.50	2	4.50	2	2.50
臨床栄養学	7	4.14	7	4.00	7	4.14	7	4.57	7	4.43	7	4.29	7	4.57	7	4.43	7	4.00	7	3.43
リハビリテーション学	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	1.00
臨床工学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
医療技術学	9	3.78	9	3.44	9	4.00	9	4.11	9	3.89	9	4.22	9	5.00	9	4.22	9	3.44	9	3.67
医療福祉経営学	1	4.00	1	4.00	1	3.00	1	4.00	1	4.00	1	4.00	1	5.00	1	2.00	1	4.00	1	1.00
医療秘書学	1	4.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	4.00	1	3.00	1	3.00	1	2.00	1	2.00	1	3.00
医療福祉デザイン学	1	5.00	1	5.00	1	4.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	3.00	1	3.00	1	5.00
医療情報学	4	4.50	4	5.00	4	4.75	4	4.25	4	4.75	4	4.50	4	5.00	4	3.75	4	4.75	4	5.00
合計	64	4.44	64	4.29	64	4.10	64	4.32	64	4.34	64	4.42	64	4.67	64	4.09	64	3.98	64	3.44

表 4 博士後期課程結果

博士課程	Q1:専攻の教育		Q2:カリキュラム		Q3:到達目標の達成		Q4:知識・技術の習得		Q5:主体的な取り組み		Q6:研究指導		Q7:成果の公開		Q8:設備・施設・図書		Q9:社会との連携		Q10:対話・交流	
	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV
医療福祉学	2	4.50	2	3.50	2	4.50	2	4.00	2	3.50	2	4.50	2	4.50	2	3.50	2	4.00	2	4.00
臨床心理学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
保健看護学	3	4.00	3	3.67	3	3.33	3	3.33	3	3.33	3	4.00	3	3.33	3	3.33	3	3.33	3	3.33
感覚矯正学	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	4.00	2	4.00	2	5.00
リハビリテーション学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
健康科学	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	4.00	3	4.00	3	3.67
医療技術学	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	5.00	1	4.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00
医療情報学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
合計	11	4.30	11	4.03	11	4.17	11	4.07	11	3.97	11	4.70	11	4.37	11	3.57	11	3.67	11	3.80

3. 自由記述

自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

4. まとめ

専攻教育全体の満足度の平均値は、修士課程で 4.44、博士課程で 4.30 であった。質問項目が専攻の教育やカリキュラム体系、専攻教員の指導方法や教員間の連携、研究指導等、大学院教育の中核を占める内容で構成されていることからすれば、修士課程並びに博士後期課程の教育・研究体制に対する大学院学生の満足度は総じて高いと言える。

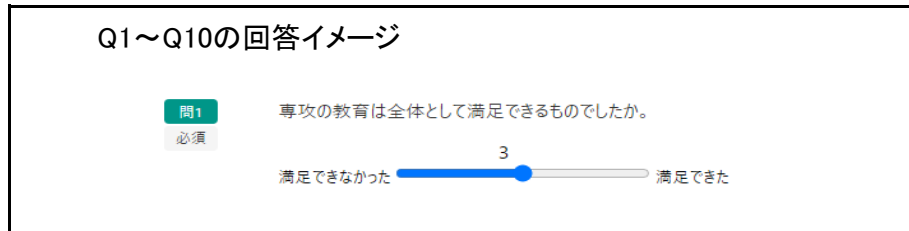
各専攻の分析結果は、概ね各課程全体の平均値の傾向に一致していたが、一部の質問項目については専攻間による違いも認められた。本学大学院の各専攻の教育内容の多様性がその背景にあるものとみられる。また、質問項目別では、「社会との連携」の満足度、および、「他専攻との対話・交流」の満足度について、これまでと同様に 4.0 を下回る値を示した。2025 年度のカリキュラム改正において専攻共通の英語科目が新設されることから、「他専攻との対話・交流」の満足度向上の契機となることが期待できる。社会との連携については、引き続きの課題として取り組む必要がある。

2022年度 大学院生によるアンケート

資料1

川崎医療福祉大学 FD・SD委員会

【専攻での教育・研究について、適当と思われるものを選択してください。】



- Q1 専攻の教育は全体として満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q2 専攻の教育課程(カリキュラム)は体系的でしたか。
＜選択肢＞体系的ではなかった→体系的だった 5段階評価
- Q3 個々の授業のシラバスに記載されている到達目標を達成できましたか。
＜選択肢＞達成できなかった→達成できた 5段階評価
- Q4 個々の授業を履修することで、高度専門職者として必要な知識・技術を習得できましたか。
＜選択肢＞習得できなかった→習得できた 5段階評価
- Q5 研究課題に対して探求心をもって主体的に取り組むことができましたか。
＜選択肢＞取り組むことができなかった→取り組むことができました 5段階評価
- Q6 指導教員(副指導教員を含む)の研究指導は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q7 研究成果を公開する機会(中間研究報告会、学会発表、論文投稿など)は十分にありましたか。
＜選択肢＞十分になかった→十分にあった 5段階評価
- Q8 実験・研究・実習の設備・施設及び図書は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q9 社会(病院や施設などの現場)との連携は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q10 他専攻の教員や大学院生との対話や交流は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q11 大学院の教育について、何かご意見があればご自由にお書きください。(任意)

回答期限:2023年2月16日(木)